

私は、これまでの自身の人生を振り返ったとき「音楽と出会えて本当に良かった」と思っています。音楽との出会いはふとしたことからでしたが、今でも音楽と関わりながら生活しています。音楽は、人生を豊かにしてくれる貴重なものです。確かに勉強ができること、学生時代に優秀な成績を収めることは大切なことです。しかし、自分のやりたいこともせず、趣味も持たず、ただひたすら教科書と参考書を読み明かすだけの時間を過ごしてきた人には、大人になったとき何が残っているのでしょうか。さて、平成31年3月、文化庁から『文化に関する世論調査』が実施されました。その中で、「子どもの文化芸術体験では何が重要か」という質問に対して、「学校における公演や展示などの鑑賞体験」が34.8%で最も高く、次いで「学校における音楽、ダンス、伝統芸能、美術などの創作・実演体験」が25.7%、「歴史的な建物や遺跡などについての学習する機会を充実」が24.3%という結果でした。

このことから、小中学校段階において児童生徒に対して文化芸術に興味関心を持たせ、意欲的に取り組ませるためには、まずは、文化芸術活動への環境整備が大切であり、特に優れた文化芸術を鑑賞することや自ら実演・体験することが重要だと言えます。宇治市内の小中学校の先生方には、音楽や美術といった芸術活動を通して、心から感動や感激することのできる、豊かな人間性や感性を身につけた子どもを育ててもらいたいと願っています。

また、私の大好きな宇治市を考えたとき、宇治市には、世界遺産に登録されている平等院や宇治上神社だけでなく歴史や伝統にあふれた神社仏閣の数々、天ヶ瀬ダムや塔ノ島、源氏ミュージアムといった見所満載の観光スポットもたくさんあります。千人以上の観客を収容できる宇治市文化センターや、市民の生涯学習のよりどころと言える生涯学習センターや公民館、図書館も整備されています。そして、日本一のお茶所です。全国的に見ても、有数の文化の香り高い町と言えます。伝統的な祭りや歴史的な建物などの存在は、その地域の人々にとって地域への愛着や誇りにつながります。

私は、宇治市の文化芸術活動がもっと豊かになるためには、市民全体が宇治市の文化や伝統歴史を学び、愛し、そして後世へ継承していくような仕組みが必要だと思います。そのためにも、ザルツブルク音楽祭やウィーン音楽祭、横浜市や神戸市など日本の様々な地域で行われている芸術祭のように、文化や芸術、歴史、伝統を世界・全国へ発信できるような、宇治市独自のビックイベントを企画できないものかと考えています。

ここまで私と音楽との関わりについてお話ししてきましたが、最後に私の夢についてお話しします。

私は、小学校4年生のときにヴァイオリンと出会い、そして大学を卒業しても30歳まで定期演奏会にOBとして出演していました。しかし、それ以降今日までの32年間、「仕事が忙しくなったから」と理由をつけて、ヴァイオリンにはまったく触れていませんでした。先日ヴァイオリンケースを開けると、悲惨な状態になっていました。今、私の右肩は痛み、左の指先もしびれていますが、ベートーヴェンのコンチェルトを演奏できることを夢見て、もう一度ヴァイオリンにチャレンジしようと思っています。

楽譜上の平面的な音符を、空間の中にいかに立体的な像として浮かび上がらせるかが、音楽の本質です。そして、幸せを感じる時間を演奏家と聴衆が共有できることが、音楽の素晴らしさです。音楽は、本当に素敵な世界です。**Let's play Music!**

本日は、ありがとうございました。

